〝沈没〟中国経済、コロナ死爆発の懸念　政府は「ごく少数」と発表も火葬場に続々と運ばれる遺体　アフターコロナの世界で違う次元に突入か

2022 年 12 月 20 日夕刊フジ

中国国旗（株式会社 産経デジタル）

「ゼロコロナ」政策を緩和した中国で、新型コロナの感染急増が懸念されている。中国政府は１日当たりの感染死者数を「ゼロ」か「ごく少数」と発表しているが、著名人の死亡が相次いで報道されたほか、火葬場に遺体が続々と運ばれているというのだ。死者数急増を予想する研究もある。アフターコロナの世界で、中国だけが違う次元に突入したのか。

【写真】葬儀場で棺を運ぶ防護服姿の人たち

葬儀場で棺を運ぶ防護服姿の人たち＝１７日、北京（ロイター）

「身の回りに亡くなった人がいる」「発表はもはや信頼性がない」
交流サイト（ＳＮＳ）では、こうした不信の声が出ているという。
中国政府は今月７日、ロックダウン（都市封鎖）などを含む強権的な「ゼロコロナ」政策を軌道修正した。その後、１４日に無症状感染者数の把握をやめており、感染者数や死者数の実態が見えなくなっている。
中国メディアによると、８日以降、中国紙の元副編集長や、元プロサッカー選手、共産党機関紙の元記者ら、著名人がコロナ感染後に死亡した。ところが、政府発表では、死者ゼロの日も続き、１９日になって北京で１８日に２人の死者を確認したと発表があったという。
北京市朝陽区の火葬場には、１９日も次々に霊柩（れいきゅう）車が到着し、防護服姿の人々が、ひつぎを運んでいたという。
中国では、高齢者のワクチン接種率の低さが課題だった。ロイター通信によると、追加接種を受けた成人と８０歳以上の比率は、５７・９％と４２・３％。中国産ワクチンへの懸念の声も挙がっていると伝えた。
隣国の現状をどうみるか。
元厚労省医系技官の木村盛世氏（感染症疫学）は「感染対策では（ゼロコロナ政策などの）強い行動制限は一時的に感染拡大を抑えられても、後ろ倒しするだけに過ぎない。各国の経験が、数年遅れで中国に現れている。開放すれば、感染者が増え、重症者が増えるのは当然だ」と語った。
ロイター通信は１６日、来年に中国の死者が１００万人を超える可能性があるという、米ワシントン大学医学部保健指標評価研究所（ＩＨＭＥ）の推計を伝えた。
１月下旬には中国の旧正月「春節」がある。中国国内だけでなく、世界各地に中国人が大移動する時期といえる。
中国事情に詳しい評論家の石平氏は「習近平政権は、達成不可能なゼロコロナ政策を実施した。国産ワクチンが不十分だった点も、封じ込めを続けた理由だろう。（白紙デモなど、人民の批判を受けて）医療施設の拡充や、オミクロン株対応のワクチンなど、適切な対策もないまま開放すれば、感染拡大は予想できた。春節前の冬場という最悪のタイミングだ。中国当局は今後、実態を隠し続けるか、ゼロコロナ政策に逆戻りするかの可能性が考えられる。中国経済がさらに沈没する可能性も否定できない。西側諸国はコロナ発生当初の二の舞いを踏まないよう、中国に厳しい制限措置をとるべきではないか」と語った